

第 10 章 調査・研究の方向性と方法

第 7 章でも触れたように、史跡の保護のために必要となる各種の調査研究には、発掘調査や文献調査をはじめとした歴史研究以外にも、利用者動線や展示・施設の満足度調査、市民参加や地域連携といった史跡のマネジメントに必要となる研究も存在する。本章では、こうした研究の根幹となる史跡の基礎的な情報として、過去に史跡内で実施された発掘調査と成果についてその概略をまとめ、今後の方向性と方法について検討する。

第 1 節 過去に実施された発掘調査と成果について

史跡広島城跡の周辺では、これまで図 13、表 10・11 に示した箇所で発掘調査が実施されており、石垣列や櫓台、建物跡といった遺構の確認をはじめとした様々な調査成果が得られている。これらの調査は、周知の埋蔵文化財包蔵地として広島城跡としている範囲（史跡範囲外の三の丸・外郭及びその北側・西側の武家屋敷地等を含む）の開発行為等に伴って実施されたもので、武家地や堀跡、石垣跡など各種遺構の確認とその記録保存と、状況に応じて遺構の埋没保存とが実施されているものである。

一方、史跡範囲内においては、図・表 10-1 に示した箇所で保存整備を目的とした発掘調査が実施されている。これらの調査は昭和 62（1987）年に実施された「二の丸第一次発掘調査」と、翌昭和 63（1988）年に実施された「二の丸第二次発掘調査」を皮切りに、史跡広島城跡を長い将来に渡り適切に保存し、有効に活用していくための長期的な取組の一環として計画的に実施されているもので、その成果の一部は平成元（1989）年から平成 3（1991）年に実施された二の丸表御門・御門橋の復元建物整備、平成 3（1991）年から平成 6（1994）年にかけて実施された二の丸平櫓・多聞櫓・太鼓櫓の復元建物整備に活かされている。

調査年度	主な対象遺構	調査期間
昭和 62（1987）年度	二の丸 表御門、櫓跡	昭和 62（1987）年 7 月 6 日～9 月 11 日
昭和 63（1988）年度	二の丸 平場部分	昭和 63（1988）年 7 月 4 日～9 月 9 日
平成 8（1996）年度	中御門跡・米蔵跡周辺	平成 9（1997）年 1 月 20 日～3 月 25 日
平成 9（1997）年度	冠木門跡・裏御門跡周辺	平成 10（1998）年 2 月 12 日～3 月 20 日
平成 10（1998）年度	本丸御殿跡周辺（1）	平成 11（1999）年 2 月 18 日～3 月 26 日
平成 11（1999）年度	本丸御殿跡周辺（2）	平成 12（2000）年 2 月 23 日～3 月 20 日
平成 12（2000）年度	本丸御殿跡周辺（3）	平成 13（2001）年 2 月 20 日～3 月 31 日
平成 13（2001）年度	石垣形状及び櫓跡調査（1）	平成 14（2002）年 2 月 13 日～3 月 29 日
平成 14（2002）年度	石垣形状及び櫓跡調査（2）	平成 15（2003）年 2 月 17 日～3 月 28 日

表 10-1 史跡範囲内の遺構保存状況調査と調査対象

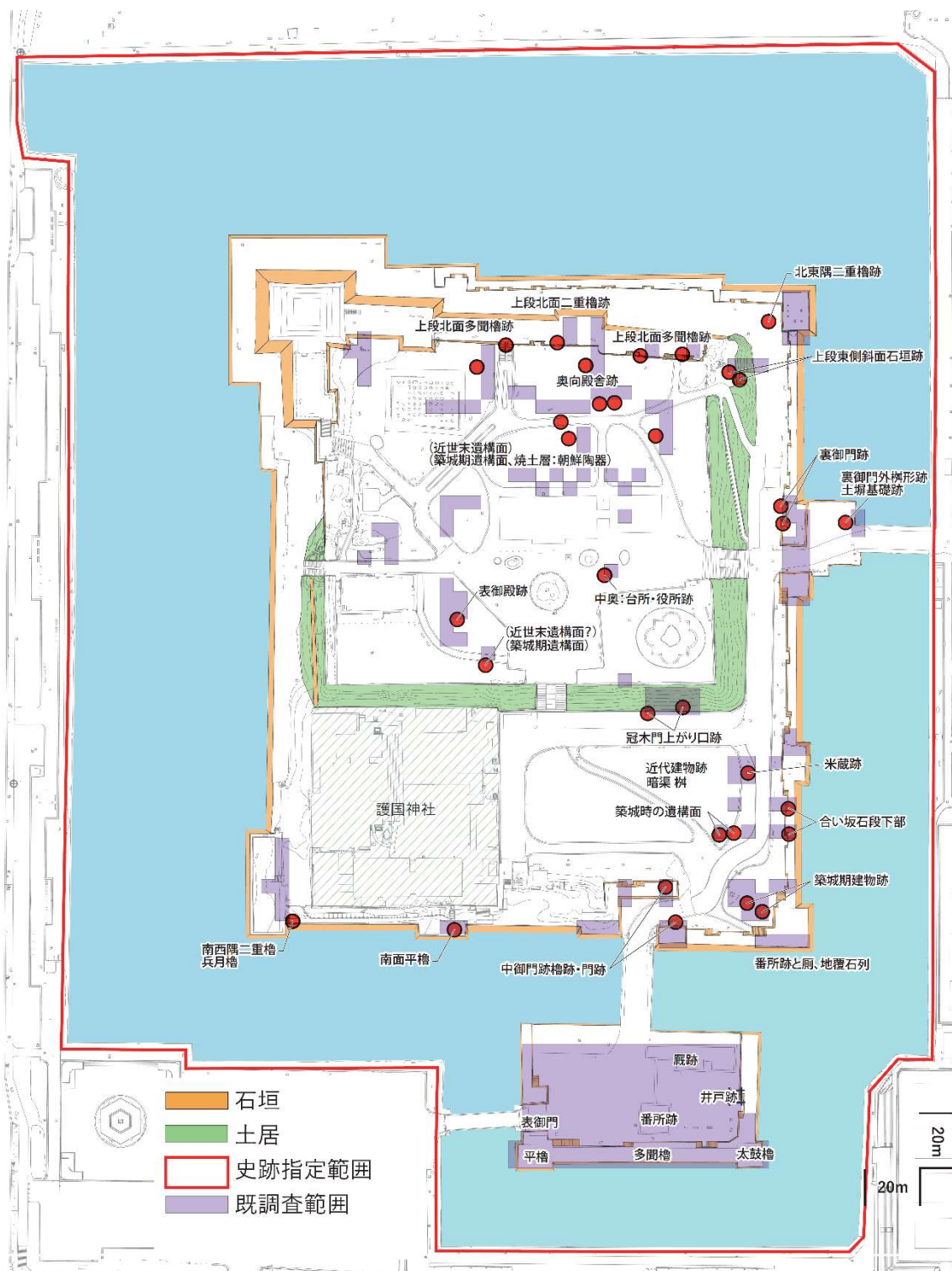


図 10-1 史跡内の既調査範囲

昭和 63 (1988) 年に刊行された保存管理計画と昭和 63 (1988) 年に刊行された整備基本計画に基づいた調査には、この他に平成 14 (2002) 年度まで継続的に実施された遺構保存状況確認のための発掘調査が存在する (表 10-1)。これは史跡広島城跡本丸部分の整備のための基礎資料取得を目的としていたが、現在までのところ、これらの調査成果に基づいた具体的な保存・活用のための整備は未実施となっている。またこれ以降、継続的・計画的な埋蔵文化財調査の実施が行われないままとなっている現状については、第 5 章でも簡単に触れている。

この間に史跡内に生じている具体的な課題としては、過去の都市公園的整備に伴って実施された遺構保護層としての被覆土砂の部分的な流出が挙げられる (写真 10-1・2)。このため史跡内は現在、降雨時に適切な排水が為されているとは言い難い状況にあり、溢水による園路の通行不良に留まらず、遺構の安定管理の側面からも懸念が生じている。

戦後、史跡内に施された都市公園的な整備については、その工事記録類が整理しきれておらず、特に史跡内全体の遺構保護層の状況については不明瞭な点が多い。このため、遺構保護層の復旧・再整備にあたっては、史跡内の広範囲を網羅する形で、遺構の残存状況、遺構検出標高及び遺構保護層残存状況の確認が必要となる可能性も考えられる。

このような状況を鑑み、今後着手予定の広島城跡整備基本計画の改訂作業の際には、具体的な実施計画の 1 つとして遺構保護層の復旧について調査実施を含めた検討を行うものとし、検討過程の中で有識者を交えた十分な議論を基に方法の詳細や実施スケジュールについて定めていくものとする。その中では、過去に実施された発掘調査の成果についても合わせて再検討することにより、史跡の本質的価値である遺構の保全と将来への継承、史跡全体の再整備についてより具体的に検討していくものとする。



写真 10-1 本丸下段西側の土砂流出状況



写真 10-2 雨水排水管の露出

第 2 節 調査の方向性と方法

第 7 章第 5 節では、史跡広島城跡周辺で進行中の施策や着手が見込まれている事業を踏まえ、史跡の地区ごとの取組と方向性について整理した。本節ではその中で施策・事業に先立ち、発掘調査の実施による基礎的情報の取得とそれに基づく施策・事業内容の具体的検討が必要なものについて確認するとともに、その優先度を考慮して「1. 短期的に着手し継続的に実施する施策」と、「2. 中・長期的に着手が望まれる施策」に区分して示す。

なおこれらの発掘調査等は、文化庁が刊行した『史跡整備のてびき』に則って実施するものである。本計画中では発掘調査等の概要説明と幾つかの例示に留め、実施方法など詳細については本計画を受けて策定される整備基本計画の策定過程の中で、有識者を交えた十分な検討を基に具体的に定めていくものとする。

1. 短期的に着手し継続的に実施する施策

- 史跡内の石垣全体について、測量図や石垣カルテの作成、変状等に対するモニタリングを実施し、石垣の保存整備のための基礎資料を準備する。測量図作成は三か年に分けて史跡内全域を網羅することを計画しており、初年度には本丸上段と下段部分及び天守台周辺の未測量部分を中心に、次年度以降は二の丸周辺と内堀内周と外周を中心に、それぞれ実施予定とする。
- 天守台周辺をはじめとした石垣基礎部の発掘調査及び地下遺構の状況把握を目的とした平面確認調査を実施し、その成果を周辺整備の基礎資料とする。調査は大学等の専門研究機関や有識者との連携も深めながら進めていくものとし、得られた成果は今後具体的に検討されていく個別の整備計画に反映させていく。
- 天守台周辺で必要となる発掘調査については図 10-1 中に案を例示する。複数年度に及ぶ事が予想され、関連事業との諸調整も必要となるため、整備基本計画の策定と並行し、これに紐づけられるべき個別の整備計画としても検討していく必要がある。
- 令和 4 年度に試掘調査を実施した広島城三の丸歴史館の予定地については、今後平面確認調査を実施し、検出された遺構の状況に応じて地下遺構の適切な保護対策について柔軟に検討する。
- 継続的で計画的な発掘調査を実施し、これまでの調査・研究成果の整理、歴史資料や建造物についての調査研究を進めていくための体制づくりを検討する。

2. 中・長期的に着手が望まれる施策

- 前項で準備する基礎資料に基づき、石垣の保存整備を崩落危険度なども勘案しながら優先度を定めて実施する。これについては整備基本計画の策定検討と並行する形となるが、個別の実施計画の一つとして、計画的に検討・実施していく必要がある。その過程では、基礎情報取得を目的として、石垣基礎部の発掘調査等が計画される場合も予想される。
- 本丸下段の中央南側に所在する中国軍管区司令部跡(旧防空作戦室)については、「広島原爆遺跡」として史跡指定に向け得た取組が進んでいるが、当面は本計画内で整理した価値基準に基づいた維持管理が継続されることとなる。今後新たに史跡指定された後には、関係機関と調整し本計画と整合性を持った保存活用計画を策定するなど、重なる史跡双方の価値を活かした史跡保護を検討していく。より具体的には、施設の劣化状況調査に加え、地下に遺存することが想定される施設躯体の概要把握を目的とした発掘調査実施なども想定されるが、これについては関係各所との連絡調整のみならず、各種施策との連携を図りながら検討されていく必要もあるため、現段階での拙速な実施は避け、十分な計画調整の下で実施することが望ましい。
- 遺構保護層の流出とその対策については重要な課題の一つであるが、園路・植栽・遺構整備など史跡の全体計画にも関係するため、整備基本計画の策定過程の中で十分な検討を行い、個別の実施計画の一つとして計画する必要がある。このための基礎情報取得を目的とした確認調査が、史跡内の広範囲で行われることも予想される。
- かつて広島城を構成していた郭跡・櫓跡・石垣・屋敷跡などが、今もなお地下に残されていると考えられる史跡外周部及び旧広島城範囲などについては着実に調査研究を進めていくものとし、機会をとらえて適切に発掘調査を実施するなど、遺構遺存状況を把握するための取組を今後も継続していく。
- 保存と活用のいずれかに偏ることなく、史跡広島城跡の本質的価値を将来に継承していくため、地域文化や地域振興、地域社会を含めた総合的なマネジメントに関する調査研究を推進するとともに、その成果を具体的な施策へ反映していくための体制づくりについて検討する。

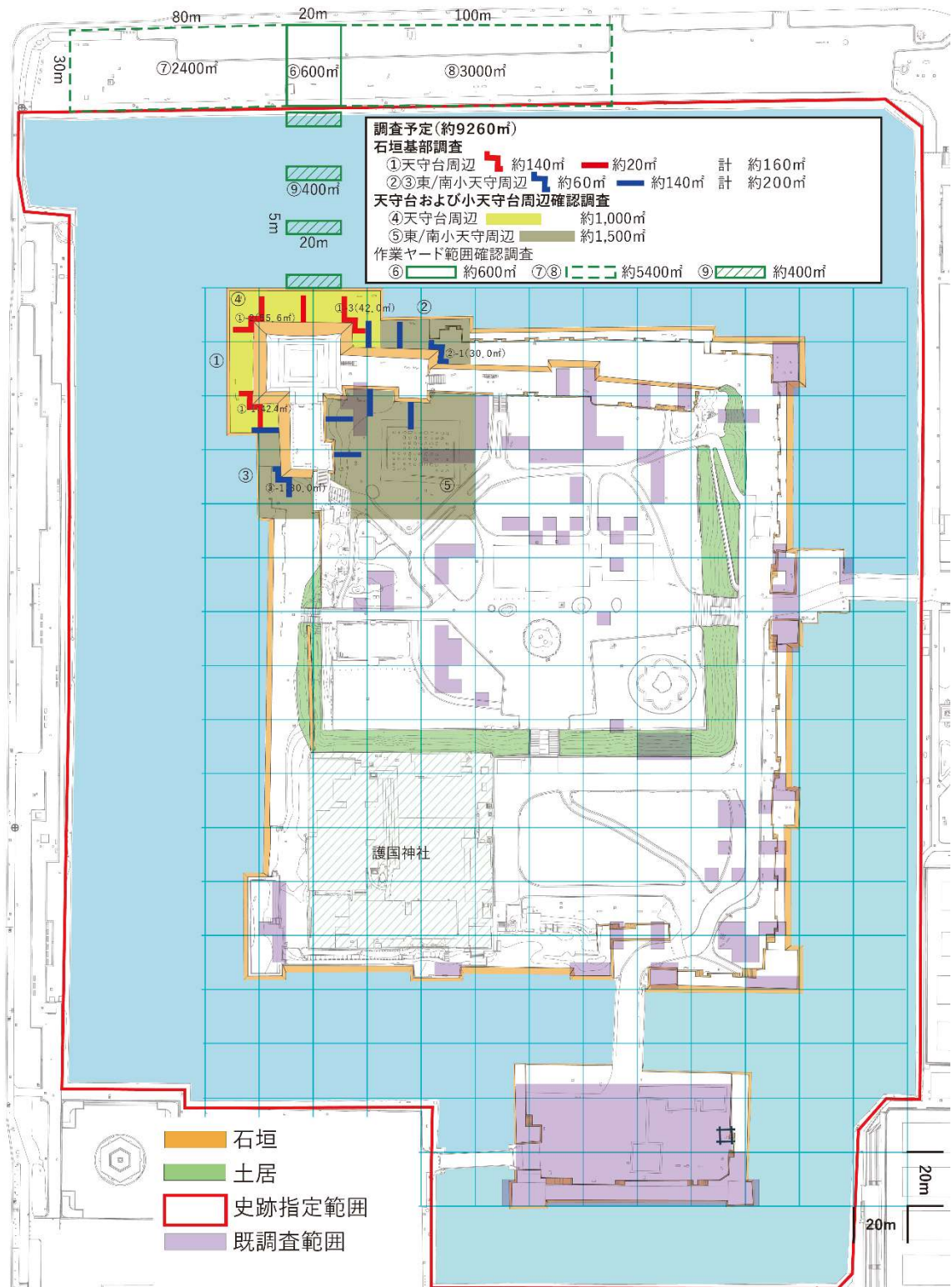


図 10-2 史跡内の調査地点と調査予定範囲 (案)

大工種		中工種	調査方法	1年次				2年次				3年次				4年次				5年次				6年次				7年次				8年次				9年次			
				1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4				
石垣調査	石垣カルテ基礎図作成・計測（第1期）	目視観察 上段部：約2300㎡ 下段：110㎡ データ作成																																					
	石垣カルテ基礎図作成・計測（第2期） （中間報告・部会意見聴取）	目視観察 内堀内周：1266㎡ 二ノ丸：1472㎡ 堀外周：8428㎡ データ作成																																					
埋文調査	史跡広島城跡 天守解体復元に伴う発掘調査 （中間報告・部会意見聴取）	①調査条件確定（先行調査） トレンチ調査																																					
		①天守台石垣基礎部 トレンチ調査																																					
		②東走櫓・東小天守跡 トレンチ調査																																					
		③西走櫓・西小天守跡 トレンチ調査																																					
		④本丸下段・天守周辺部 平面確認調査																																					
		⑤本丸上段・小天守周辺部 平面確認調査																																					
		⑥搬出搬入路部 平面確認調査																																					
		⑦資機材保管庫部その1 平面確認調査																																					
		⑧資機材保管庫部その2 平面確認調査																																					
		⑨架設橋脚・橋台部 記録保存調査																																					
		⑩内堀基底部 平面確認調査																																					

野外調査室内整理

■ 野外調査 ■ 室内整理

表 10-2 調査の予定とスケジュール（案）